


# 感染症分野

## 研究領域

### 「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2021年	研究期間	5年間
研究課題名	ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業	貢献する主なSDGs	
研究代表機関	大分大学		
相手国	ブータン王国	主要相手国 研究機関	ブータンケサール・ギャルポ保健省 王立疾病管理センター ジグメ・ドルジ・ワンチュク国立総合病院
研究課題の概要			
<p>ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染は、胃癌を引き起こす感染症であるが、ブータンをはじめ途上国では対策がなされていない。抗菌薬不適正使用のため、ピロリ菌抗菌薬耐性は地球規模で警告レベルである。ブータンは、ピロリ菌感染率が7割を超え、胃癌死亡率世界3位であり、胃癌は死を意味する。そこで、1) 迅速ピロリ菌検査法、2) 迅速薬剤感受性試験をブータン研究者とともに確立させ、ブータンへの技術移転を目指し、3) 遠隔教育を含めた内視鏡教育プログラムを通して、微生物学と内視鏡学を両輪としたピロリ菌診断治療ガイドラインを作成する。これをもとにブータン保健省と連携して、4) ピロリ菌／胃癌全国調査・除菌を実施する。</p>			